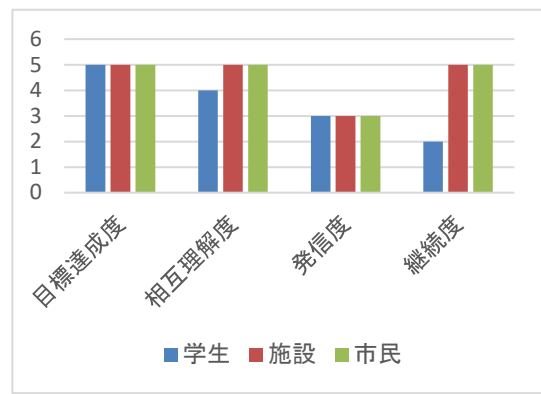


実習先	国分寺市もとまち公民館(もとまち地域会議、もとまち公民館サポーター会議) (社会教育演習 I・II)
実習テーマ	協働プロジェクトを通じた学びあい支援にかかわる実践力育成
背景・目的・概要	学生・施設側双方の背景・問題意識、目的等 (受け入れ先)公民館と市民との協働のあり方や方法を具体的にどう進めていくかという課題が存在。若者の来館者が少なく、利用者が固定化・高齢化している現状。地域会議で運動会や防災シンポジウムを進めていくうえで、若い世代の活気とサポートが求められる。
	概要 社会教育施設・団体との協働プロジェクト活動を通して、地域における人びとの学び合いの展開、社会教育施設・職員の機能と役割、社会教育の意義や方法について理解する。また、グループでの実践活動を通して、仲間と共に探究・実践・省察する力、学習支援の実践的な力をつける。 国分寺市元町公民館を拠点に、公民館、もとまち地域会議(もとまち地域の公・民多様な団体が参加する自主的なネットワーク会議)、もとまち公民館サポート会議(前身は公民館運営審議会。公民館活動に関して協議・支援をする)と協働し、「もとまちファミリー運動会」「防災シンポジウム」「ふれあいまつりもとまち」「市民がつくる講座」といった活動・事業に年間を通して関わる。
分野	教育・まちづくり・防災など
形態	長期継続/1年間/5人
手法	参加・体験、ボランティア支援、企画・運営、PBL、AL,SL,CL
プログラム	(事前) 演習(倉持クラス)で提示された3~4の協働プロジェクトの中から関心ごとにグループに分かれる。 前年度の報告書を読み、前年度の受講者から引き継ぎを行う。
	(事中) ・ファミリー運動会(もとまち地域会議) 公民館を拠点にした地域ネットワーク会議「もとまち地域会議」によって主催され、小学校の体育館を会場に約100人のボランティアと約200人の参加者を集めて2007年から行われている。うち学生は他大学生もあわせて30~40人参加するが、本授業の学生は実行委員会に参加し、ボランティア学生のまとめ役、市民とのつなぎ役、当日の競技進行、掲示物の作成などを行う。 ・防災シンポジウム(もとまち地域会議) 同じく地域会議主催で、行政主導でも自治会主導でもなく、地域に住んでいる一人一人の防災力を高め、自助の力をつけ、将来的には地域の防災力を高めることを目指して行う。会場は公民館。前半は震災体験者や市防災課などからの話題提供、後半はグループに分かれて話し合いなど。学生は地域会議世話人とともに企画・運営に関わる。当日の司会やグループ運営なども担う。 ・市民がつくる講座(公民館・サポート会議) 公民館と市民との協働を目指して、講座のテーマ、内容、方法、講師、運営などすべて市民が中心となって取組むもの。2014年度の立ち上げ当初から、実行委員会メンバーとして学生も関わる。
	(事後) 報告書を作成する。ラウンドテーブルでポスターセッションを行ったり、グループで実践報告を行う。
方法論上の特記事項	

成果

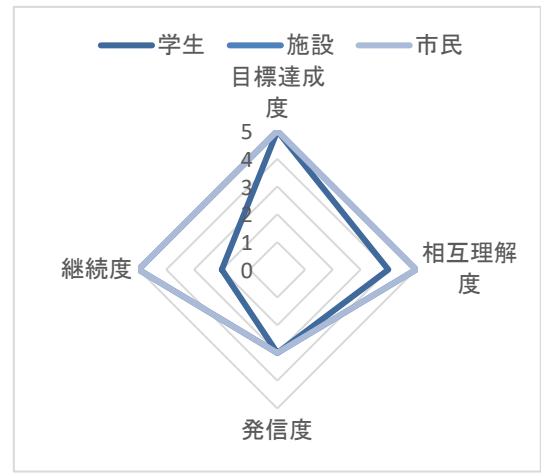
(学生)

- ・様々な人と意見を交わしながら、一緒に企画を作っていくことの難しさと面白さがわかった。
- ・テーマ、内容、方法、広報、進行などさまざまなことを考えなければいけない。
- ・この経験が卒業研究のテーマ設定に影響し、インタビューなどに協力してもらった。
- ・就職活動のグループディスカッションや面接で困らない(話し合い方、話す内容)。



(受入先)

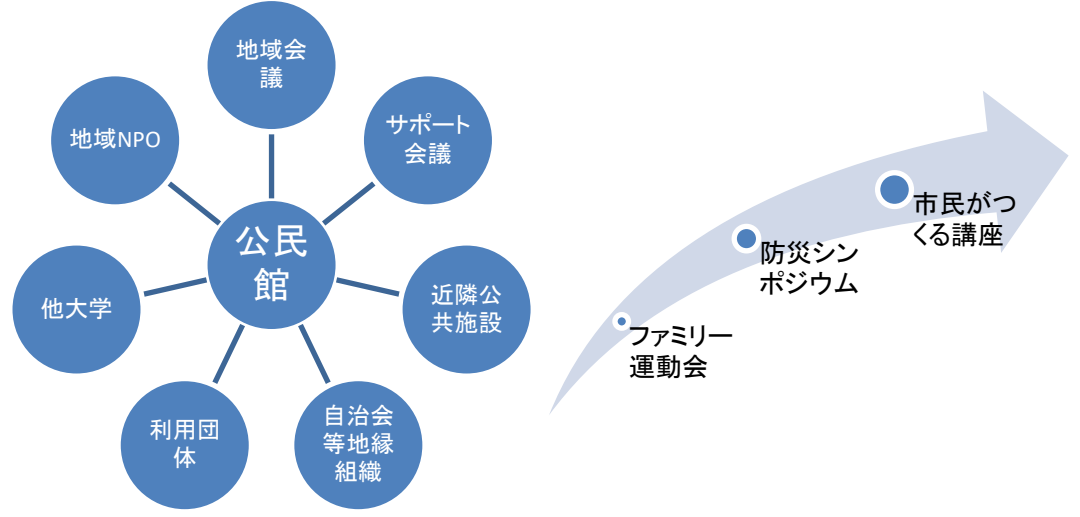
- ・大学生が関わることで利用者が活気づく。
- ・市民がつくる講座や防災シンポジウムでは、企画案やチラシづくり、実行委員会の記録や当日資料作成、当日の司会進行や話し合いのファシリテーター・記録などで不可欠な役割を担っている。
- ・運動会で作成したポスターを公民館廊下に貼りだしている。



(その他地域社会)

- ・若者と交流するのは楽しい、発見がある。
- ・他の公民館や利用者から、どうして大学生がそんなにたくさん関わっているのかとうらやましがられる。
- ・大学と連携して企画・運営する活動を公民館や地域の特徴として報告している。

実施イメージ



資料・写真等



(株)シンライン「先生図鑑」から取材される

実施主体関係情報

東京学芸大学社会教育演習(倉持クラス)